

2018年度(平30)天田財団助成研究成果発表会

天田財団(岡本満夫代表理事)は、助成した研究成果の普及啓発に積極的に取り組んでいる。ここでは4月25日と5月31日に開催した助成研究成果発表会を報告する。

第2回天田財団レーザープロセッシング・助成研究成果発表会

プロセッシングのためのレーザー開発と加工法の高度化

天田財団は4月25日から27日までの3日間、バシフィコ横浜で開催された「OPTI'E18」に出展。助成研究成果報告書、FORM TECH REVIEW (財団機関誌)、財団ニュースなどを配布し、財団が行っている公益事業の紹介や助成研究成果の普及啓発を積極的に行った。「OPTI'E18」は併設セミナーや併催イベントも多く、光学関連の国際学術会議「OPIC2018」も同時開催されることから、国内最大規模の光学関連展示会となっている。

同展示会に併設して4月25日13時からバシフィコ横浜のアネックスホールで「プロセッシングのためのレーザー開発と加工法の高度化」を特集テーマに「第2回天田財団レーザープロセッシング助成研究成果発表会」を開催した。参加者は130名、主催者を代表して天田財団の佐藤雅志専務理事が司会を務めた。



助成研究成果優秀賞受賞者

の佐藤雅志専務理事が開会のあいさつを行い、片山聖二評議員(大阪大学名誉教授)による同成果発表会の趣旨説明が行われた。その後、東北大学の佐藤俊一教授が「次世代プロセッシングのためのベクトルビームの開発」、宇都宮大学の早崎芳夫教授が「ホログラフィックフェムト秒レーザー加工」、埼玉大学の池野順一教授が「ガラス箱のレーザー3次元成形加工」をそれぞれ発表し、その後、会場を移し懇親会が開かれた。レーザー学会の阪部周二理事(京都大学工学部教授)より、次回の「第3回天田財団レーザープロセッシング助成研究成果発表会」もOPTI'E18に併催して行うことが発表され、オプトロニクス社の大澤哲夫代表取締役社長の乾杯の発声で開演した。

その後、会場を移し懇親会が開かれた。レーザー学会の阪部周二理事(京都大学工学部教授)より、次回の「第3回天田財団レーザープロセッシング助成研究成果発表会」もOPTI'E18に併催して行うことが発表され、オプトロニクス社の大澤哲夫代表取締役社長の乾杯の発声で開演した。

第16回天田財団塑性加工・助成研究成果発表会

サーボプレスによる塑性加工の高度化

天田財団は5月31日13時から国立オリンピック記念青少年総合センターのセミナーホールで日本塑性加工学会が開催する2018年度(平30)塑性加工春季講演会に併設して「サーボプレスによる塑性加工の高度化」を特集テーマに「第16回天田財団塑性加工助成研

の後、中部大学の石川孝司教授が「サーボプレスの特微とその利用技術」と題して特別講演を行った。続いて、首都大学東京大学院の楊明教授が「サーボプレスの成形におけるメカニズムの解明とプロセス設計に関する研究」、横浜国立大学の横野智美准教授が「サーボプレスを用いた荷重低減を目的とした低サイクル振動圧縮加工法の開発とメカニズムの解明」、大阪大学の松本良准教授が「サーボプレスを活用した中空部品加工のため

のその後、国際交流棟1階のレセプションホールに会場を移して懇親会が開かれた。アマダスクールの末岡横弘理事長から優秀板金製品賞と経済産業大臣賞の受賞作品紹介があり、今年度から日本塑性加工学会会長賞が創設されたことが案内された。



パネルディスカッション後の表彰式

研究開発・国際交流に助成金

天田財団では現在、金属等の塑性加工およびレーザープロセッシングに関する研究開発助成・国際交流助成の募集を行っている。金属等の塑性加工および高密度エネルギー下での諸特性を利用した加工に必要な技術の調査・研究に対する助成およびその国際交流の助成を行う。研究開発助成は2億3000万円、国際交流助成は3450万円(前期・後期合算)を予定している。募集期間は7月31日まで。申し込みは同財団ホームページに研究者登録後、各助成プログラムを選択する。問い合わせは(0466-3-966-91500)へ。